

共立女子第二中学校

2024年度

入学試験問題（1回AM）

【 国 語 】

試験時間 50 分

【 注 意 】

- 1 試験開始の合図があるまで、中を見てはいけません。
- 2 問題は一〜三で、全部で11ページです。試験中によごれや不足しているページに気づいた場合は、手をあげて監督かんとくの先生を呼んでください。
- 3 解答はすべて解答用紙にはっきりと記入し、解答用紙だけを提出してください。

一、次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

ヨーロッパの人びと、とくにイギリス人は、どんな食事①をしているのでしようか。たいていの人は、「ヨーロッパ人の主食はパンです」とか、「パンと牛肉が主食です」などと答えるようです。

A、このような答えは、まちがいの**②**というべきでしょう。そもそも、「主食」と「副食」というような考え方が、ヨーロッパにはないからです。だいたい英語にも、フランス語にも、「おかず」などという言葉はありません。ご飯が「主食」で、「ご飯を食べる」ことこそが、食事することだという日本人の感覚は、ヨーロッパでは通用しません。「ご飯」という言葉が、「食事」の意味にも、「煮込んだ米」の意味にもとれるということが、日本の食生活の特殊性とくしゆせいを示しています。反対に、ヨーロッパ人なら、日本人が「**②**」と思うようなものばかりをいろいろ食べても、それで「食事」になっているのです。

むろん、パンも食べますが、それもいろいろな食べ物の中のひとつとすべきでしょう。アメリカから「コロンブスの交換こうかん」でヨーロッパにもたらされたジャガイモであっても、同じような道を通ってきたトウモロコシであってもかまわないし、場合によっては、それがバナナであっても、またはステーキのような畜産物ちくさんぶつであっても、「食事」は成り立ったのです。「主食」と「おかず」の区別のある国は、世界中でもむしろ少ないのかもしれない**③**。反対にヨーロッパ人の場合は、ヨーロッパの農業が、多くの場合、穀物栽培こくもつさいばいと牧畜ぼくちくの混合になっていましたので、「雑食」性になってしまったのでしよう。

そのように考えると、砂糖も食品として、たいへん大きな意味をもったことになりました。紅茶や砂糖の話題は、イギリス人の生活ぶりからすると、穀物の話題と同じくらい重要なことなのです。じつさい、いまでもイギリス人は、平均してカロリーの一五パーセントから二〇パーセントを砂糖からとっている、とさえいわれているのです。イギリス人は、食事の最後に砂糖をたっぷり使った「スウィートあま(甘いもの)」というお菓子類かしるいを食べるのがふつうですし、紅茶にも砂糖をたっぷり入れて飲む人が、多いからです。

④は、どうでもよい嗜好品しこうひんではなく、有力なカロリー源となっているうえ、紅茶と組み合わせられて、「イギリス風朝食」の基本となり、産業革命時代のイギリス人の生活の基盤きばんになったのです。

まずなによりもはじめに知っておくべきことは、食事の習慣などというものも、歴史的には、私たちが想像するより、ずっと激しく変化するものだということです。B、ここで検討しようとしている朝食についても、もともとイギリス人は、中世らしい一日二食でしたから、朝食というものを食べていなかったといわれています。一日三食の習慣ができ、食事の時間帯も、いまのようになったのは、一七世紀中ごろからのことだと思われれます。もともと、いまでも日本では、正午から一時までが昼食の時間になりますが、イギリス人の昼食は午後一時から二時までのあいだです。

しかし、それにしても、その後も朝食がどんなに変化しやすいものであったかについて、おもしろいエピソードが残っています。登場人物は、東京帝国大学（ていこく）の英文学の先生であり、『吾輩は猫である』（わがはい）などを書いた明治時代の文豪（ぶんこう）でもあった夏目漱石と、すでに何度か登場した、イギリスの文学者（ぶんがく）ジョンソン博士です。

一九世紀も後半になってロンドンに滞在（たいざい）した夏目漱石は、悪名高いイギリスの食事に音をあげ、ジョンソン博士を引き合いに出して、皮肉たつぷりの手紙を日本に送っているのです。助手に雇（やと）ったスコットランド人をからかうことを、楽しみのひとつにしていたジョンソン博士は、彼の編集（か）した有名な英語辞書のなかに、「オート麦」という項目（こうもく）を設けました。「オート麦」というのは、麦類のなかでも下級なものです。イギリス人の朝食によく出てくる「ポリッジ」とよばれる、一種のお粥（かゆ）のような食べ物の材料です。「ポリッジ」は、当時のことはよくわかりませんが、いまでは砂糖を入れて、ミルクで溶（と）きながら食べるのがふつうです。それでもお世辞にも、おいしいものではありません。

ところで、ジョンソン博士は、スコットランド人をからかって、その辞書に「オート麦とは、イギリスでは馬に与（あた）えているが、スコットランドでは人が食べている穀物」と書きこんだのです。しかし、およそ一〇〇年後に、ロンドンに留学した夏目漱石が書くわしたのは、毎朝食卓（しやくたく）に出てくる「ポリッジ」でした。C、この一〇〇年ほどのあいだに、スコットランドどころか、イギリス南部のロンドンでさえ、「ポリッジ」がふつうの朝食になっていたわけです。そこで漱石はすかさず、^⑥「さては、イギリス人がすべて馬になつたらしい」と、日本の友人に書き送って、うさばらしをしているのです。

ジョンソン博士が活躍（かつやく）した時代と、漱石がロンドンに留学した時代とのあいだには、一八世紀末から一九世紀はじめにかけて「産業革命」といわれる大きな社会の変化が起こりました。これまでの家のなかで行なわれていた手工業に代わって、工場がふえ、機械

や蒸気機関のような動力が用いられるようになって、工業や鉱山業が急速に発展したのです。蒸気機関は、交通機関にも応用され、鉄道が全国を走るようになりました。それにつれて、ロンドンはもとより、リヴァプール、マンチェスター、バーミンガムなどという都市が大発展をとげました。こうして、イギリスでは、都市に住み、工場で働く労働者のほうが、農民の数よりも断然多くなっているのです。

ほかでもないこの時期に、じつは「ポリッジ」のほか、「砂糖入り紅茶」を中心とする「イギリス風朝食」（イングリッシュ・ブレックファースト）が、生まれたのです。つまり、半世紀ほど前のジョンソン博士の時代には、ぜいたく品だとか、麻薬まやくのような「毒」だとかいわれて、ウエスレイのようにその使用に反対する人が多く、大論争を巻き起こした「砂糖入り紅茶」が、この時代には、労働者のふつうの朝食となってしまうたのです。

ところで、「イギリス風朝食」の特徴は、何よりもヨーロッパ大陸のもの、つまり「コンティネンタル・ブレックファースト」に⑧くらべて、「重い」ことです。現在の「イギリス風朝食」は、ベーコンや卵がつき、トーストもついていることが多いので、昼食より重い感じもします。このように「重い」朝食は昼間、からだを使って働く労働者には、適しているのだといわれています。

D、この時代には同時に、昼食と夕食のあいだが開き、それをうめるために、「アフタヌーン・ティー」や「ティー・ブレイク」の習慣も生まれました。午後四時ごろにひと休みして、ビスケットなどといっしょに紅茶を飲む習慣です。ですから、このころになるとイギリス人は、一日四食になったというべきなのかもしれません。

〔川北稔『砂糖の世界史』による〕

*嗜好品 Ⅱ 栄養のためではなく、好きで、食べたり飲んだりするもの。

*ウエスレイ Ⅱ 人物名。

*コンティネンタル・ブレックファースト Ⅱ ホテルの朝食メニューの一つで火を通さない冷たい料理を中心としたもの。

問一 **A** **D** にあてはまる語として最も適するものを選び、記号で答えなさい。（記号は一度しか使えません）

ア また イ つまり ウ しかし エ たとえば

問二 ① 「イギリス人は、どんな食事をしているのでしょうか」とありますが、イギリス人が朝食を食べるようになった時期はいつごろですか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 一六世紀中ごろ イ 一七世紀中ごろ ウ 一八世紀末 エ 一九世紀後半

問三 ② にあてはまる語を本文中より三字でぬき出しなさい。

問四 ③ 「反対に」とありますが、どの国と比べて反対になるのですか。国名を本文中よりぬき出しなさい。

問五 ④ にあてはまる語を、本文中より一語でぬき出しなさい。

問六 ⑤ 「ジョンソン博士」の説明として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア イギリスの文学者で、悪名高いイギリスの食事に苦悩し、ポリッジに砂糖とミルクを入れることを予見していた。

イ 助手として雇ったスコットランド人と馬を比べながら、ひどい朝食について夏目漱石と手紙のやりとりをしている。

ウ 砂糖はぜいたく品と言われた時代に活躍し、英語辞書の中でスコットランド人をからかう文章を書き残している。

エ 産業革命後に労働者が砂糖入りの紅茶を飲むようになったことに驚き、日本の友人に報告する手紙が残っている。

問七 ⑥ 「さては、イギリス人がすべて馬になつたらしい」とありますが、どういう意味ですか。説明として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア イギリス人は馬が食べるものを、食べるようになったということ。

イ イギリス人は、馬が食べなくなった草を食べているということ。

ウ イギリス人は馬のように、一日中よく食べ、よく働くということ。

エ イギリス人は馬をまねて、朝食を食べるようになったということ。

問八 ⑦ 「この時期」に何が起きましたか。本文中より四字でぬき出しなさい。

問九 ⑧ 「『重い』」とはどういうことですか。説明として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 労働者が業務前にすばやく食べることができるよう、火を通さないということ。

イ 労働者が気持ちよく働けるように、一品ずつ時間をかけて作ったということ。

ウ ベーコンやトーストに砂糖をかけた、体が重くなるようなものだということ。

エ 品数が多く、労働者にとって充分じゅうぶんに体力をつけることができるということ。

問十 本文の内容と合うものとして、最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア ヨーロッパ人はパンを主食にするのに対し、日本人は煮込んだ米を主食にする特殊性がある。

イ イギリス人は平均して、カロリーの五十パーセントを砂糖からとっているといわれている。

ウ 食事の時間帯や朝食メニューが変わるなど、歴史的に食事の習慣はげしく変化している。

エ 都市の交通網こうつうもつの発展にともない、労働環境かんきやうが変化すると、人の食の好みは変わっていく。

二、次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

やっぱり*ひやくにぎりがよかった気がする。

今朝、教室で、つむじがふたつあることをそれとなく自慢じまんしてみたんだけど、前の席の大沢くんが勢いきほいよく振り向いて、

「俺おれだつてつむじぐらいふたつあるけど」

といったのだ。つむじぐらいって何よ。

「俺はつむじはひとつだけけど、ふたつあるからって別にうらやましくねえし」

わざわざ斜めなな前の席の平田くんまで口を挟はさんできた。

「つむじがふたつって強運なんだから」

いい返しながら、強運じゃなくて幸運だっつけ、と思っている。

「まどかは運が強いんじゃないかって、これが強いんだよな、女子のくせに」

そういつて平田くんが力こぶをつくるみたいに右腕みぎうでを肘ひじで曲げてみせた。

「あんたより弱かったら恥はずかしいもん、女子として」

私が答えるのを、私の席まで遊びに来ていた美波ちゃんがにこに見ている。美波ちゃんはこういうとき、まったく頼たよりにならない。私と目が合うと、にっこり笑っていった。

「どうしたらまどちゃんみたいに強くなれるのか、教えて」

美波ちゃんには悪気がない。小っちゃくて、おしゃれで、かわいい。私のことを強いと信じていて、しかもそれを
①だと
思ってくれている。

ほんとに私が強ければいいんだけど。

「美波ちゃんだって強いんだよ、本気を出せば」

そう答えておいた。美波ちゃんは恥はずかしそうに笑った。

でもね、と声に出せずに心の中でだけつぶやく。誰だれかが本気を出したら負けちゃうくらいの強さなんだ、私の強さは。
②美波ちゃん、
ごめん。

毎年、秋にある小学生の柔道大会のために、地区の強化選手が選ばれて夏休みに合同練習が行われる。うちの道場から出す強化選手三名を発表すると聞いたとき、私③は思わず小さくガツポーズをした。道場の小学生の中では三番目くらいには強い自信があった。いちばん強かった弘毅くんが春から中学生になって、あとの小学生はタケノコの背比べって感じだけれど。あ、違ちがう、何だっけ、何の背比べだったっけ。

そんなことを考えていた私は、定一先生の——おじいちゃんの——言葉の意味が理解できなかった。

「駿太郎と、遼、それに彰宏。うちの道場を代表して行くんだから、しっかり稽古けいこをつけてもらいなさい」

駿太郎くん④と遼くんは六年生だ。とびぬけて強いわけでもなかったけれど、この頃急まに身体が大きくなって、力もぐんぐん、それこそタケノコみたいに強くなっている。

だけど——だけど、彰宏くんは。

たぶん、本人も選ばれると思っていなかったのだ。彰宏くんは一瞬
A
して、それから道場じゅうに響ひびき渡るような声で、はい

つ、と返事をした。ほっぺたが赤くなって、顔にまで元気が張りつめているみたいだった。

私が見ているのに気がつくのと、彰宏くんは **B** 笑った。照れたり、気を遣ったりするふうがなくて、**C** する。こっちはこんなに悔しいのに、ばれてないみたいだ。悔しがつていることがばかばかしくなるような笑顔だった。

だけど、遼くんが真剣な声でいった。

「定一先生、なんでまどかじゃありませんか。まどかが強いと思うんですけど」

彰宏くんより、とはいわなかったけれど、比べる相手が同じ四年生の彰宏くんであることはみんなもわかっているだろう。

⑤ 「まどか、どうなんだ」

定一先生が私を見た。答えようとしたら、**D** 喉が鳴った。

彰宏くんより強い。強かった。でも、暑くなり始めた頃から、勝てなくなっていた。他の子にはいつもどおりに勝っていたから、**⑥** ということだろう。それは認める。でも、どうしてなのかわからなかった。ついこないだまで確実に勝っていたのだ。ついこないだまで、というのを具体的に思い出そうとして、もうずいぶん長いこと勝てていなかったのを思い出す。

「——彰宏くんのほうが強いです」

私が答えたら、定一先生がうなずいた。

「わかっていればいいんだ」

それから定一先生は、誰にでも伸びる時期、強くなるときってものがあるんだって話をした。だから、焦ることはない、伸び悩んで苦しいときが長ければ長いほど強くなれるのだ、と。

「この道場でも、ずっと一番強かったなんて人はいないんだよ」

ずっと一番。いるじゃん。おじいちゃんだ。

そう思ったけれど、黙っていた。おじいちゃんを目指すのは無理かもしれないけど、いつかはおじいちゃんの次に強くなって道場の後を継ぎたい。⑦ 今までは簡単に口に出せていた願いが、喉でつかえて言葉になりそうもない。

私はいつ伸びて、いつ強くなるんだろう。どれくらい強くなれるんだろう。

目を上げたら、彰宏くんが見ていた。まじめにまっすぐ私を見ていた。ぜんぜん笑いたい気分じゃなかったけど、ここでさっきの笑顔に応えなきゃと思って、がんばって笑った。

彰宏くんには気を遣われたくないし、私も遣いたくない。正々堂々と勝負したい。それから、ちよつと美波ちゃんのことを思い出した。美波ちゃんは自分のひやくにぎりの強運を河村くんと同じクラスになれたこと、っていつてた。今までそんなふう考えたことはなかったけれど、^⑨河村彰宏くんと同じ道場で競えるのは、もしかしたら運がいいのかもしれないとまっすぐな目を見て初めて私も思った。

家に帰ったら、ちよつどおにいちゃんが出かけるところだった。

「どこ行くの？」

「マサヤのどこ。練習だよ」

「ふうん」

おにいちゃんは、あれっ？ て顔をしたと思う。ふうんで済ませちゃったからだ。これまでは、隙さえあれば一緒に連れてってほしいと駄々ををこねたし、こないだは応援メッセージを託したりもしたし。

だけど十歳女子って実はそんなにヒマじゃない。強化選手から外れてダメージポイント一〇〇〇なのだ。

〔小路幸也・宮下奈都『つむじダブル』による〕

*ひやくにぎり Ⅱ 強運の持ち主といわれる手相のこと。

問一 ①にあてはまる語として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア うつくしいこと イ ありえないこと ウ いいこと エ きまりが悪いこと

問二 ②「美波ちゃん、ごめん」とありますが、あやまっている理由としてあてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 美波ちゃんの期待に応えられるほどは、自分が強いとは思っていないから。
イ 実際にはそれほど強くないので、だましているような気持ちになったから。
ウ 自分に足りないことは何なのか理解できていないことを自覚しているから。
エ 男よりも強い自分が恥ずかしくて嫌だと思っていると一言もないから。

問三 ③ 「私は思わず小さくガッツポーズをした」とありますが、その理由を本文中の語句を使って二十字以内で説明しなさい。

問四 ④ 「それこそタケノコみたいに強くなってきた」とありますが、これはどのような意味ですか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア タケノコのあくが強い様子を、駿太郎くと遠くんの気が強くて話しかけにくい様子にたとえている。

イ タケノコの季節を表す存在感の強さを、駿太郎くと遠くんが周囲から頼られる様子にたとえている。

ウ タケノコの成長が驚くほど早い様子を、駿太郎くと遠くんが急に強くなった様子にたとえている。

エ タケノコの大地をつきぬけて伸びる様子を、駿太郎くと遠くんが練習に打ち込む姿にたとえている。

問五 A D にあてはまる語として最も適するものを選び、記号で答えなさい

ア ぐっと イ ほっと ウ にこっと エ ぼかんと

問六 ⑤ 「まどか、どうなんだ」とありますが、定一先生があえてまどかに聞いた理由として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 彰宏くんことは、仲の良いまどかが一番わかっていると考えたから。

イ 自分の力量を見定めることが、まどかの成長につながると考えたから。

ウ 道場で一番自分が強いと思っているだろうまどかにくぎを刺しておこうと考えたから。

エ まどかは自分の孫なので、道場全員の力量をきくとわかっていているだろうと考えたから。

問七 ⑥ にあてはまる語句として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 彰宏くんが強くなった イ まどかが弱くなった ウ 二人の力の差は変わらない エ 二人とも成長している

問八 ⑦「今までは簡単に口に出せていた願いが、喉でつかえて言葉になりそうもない」のはなぜですか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 今までは道場で自分が一番強いのだと思っていたが、少しずつ負けるようになり自信を失っているから。

イ 今までは練習さえすれば強くなれると考えていたが間に合わないのではないかと不安になっているから。

ウ 今までは道場の仲間を少し物足りなく感じていたが勝てなくなった自分に気づき希望を失っているから。

エ 今までは無邪気に練習することができたが、少しずつ自分を冷静に見られるようになり焦っているから。

問九 ⑧「さっきの笑顔」とはどのような笑顔でしたか。本文中より二十五字以内でぬき出しなさい。

問十 ⑨「河村彰宏くんと同じ道場で競えるのは、もしかしたら運がいいのかもしれない」とはどういうことですか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 彰宏くんには才能があるので、これからもっと強くなるから。

イ 彰宏くんとまどかは、お互いに競って高めあえる関係だから。

ウ 彰宏くんは、強い柔道家の孫でコツコツと努力ができるから。

エ 彰宏くんとまどかは、同じ四年生なので体格差などないから。

三、次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～④の熟語の構成の説明として最も適するものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 探求 ② 激減 ③ 寒暖 ④ 訪日

- A 同じような意味の字を組み合わせたもの。(例) 良好
- B 反対の意味の字を組み合わせたもの。(例) 大小
- C 上の字が下の字を修飾しゅうしよくしているもの。(例) 緑色
- D 下の字が上の字の目的語になっているもの。(例) 登山

問二 次の①～④の文の□部分がかかっているところを、各文の——線部から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 夏休みに家族で行ったアジアの国。
- ② いつもアたくさんのイ元気をウ君からエもらう。
- ③ これはア君がイ落としたウ国語のエノートですか。
- ④ 美しいア花がイ学校のウ庭にエ咲いてオいる。

問三 次の①～④の俳句が表す季節として最も適するものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。(記号は一度しか使えません)

- ① 木の末に遠く花火の開きけり ② 半ば来て雨に濡れる花見かな
- ③ いざさらば雪見にころぶ所まで ④ 寺に寝てまこと顔なる月見かな

ア 春 イ 夏 ウ 秋 エ 冬

問四 次の①～④の文の——線部の漢字をひらがなに直しなさい。

- ① 実験の装置を作る。 ② 問題冊子を見る。 ③ 困難な課題を受け持つ。 ④ バスを降りる。

問五 次の①～④の文の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなをひらがなで書きなさい。

- ① 休みにキョウリへ帰る。 ② みんなでカイランする。 ③ シャクは長さの単位だ。 ④ 仕事をマカセル。